

しる事ありし上より其の事や明日の禱り
一先ノ御夜御一の被智多事申上る所
陛下下勅ラセテ曰ク此年ニ就テは象啓
必スシテ遂ニあるとセサレシ一日モ早クコト事
ヲ決シテ不苦生テ安んズト勅のる也
三月三夜轍日轍夜一とカ事ヲ終ス
トトノ御詔しテ予魏然として肉國は
望マセテしり且り又彼ノ

大勅禱ヤ有テし進りテ今ノ時ハ汝等
君もろくカレ申朕親ヲ弟ヲ孫ヲ憲
法ヲ編造仰出されたりトコレ由テ魏
漢結公カ盛況ヤ看として情起セラレり
と云

一大隈参議職ヲ辞されたるコト又下
種ノ疑念ヲ抱ク者ありト其王何れカ
其従の者ヤ失くしたる事是ト云同云
去年以來頗る交リを断れたるを以テ
今更之ヲ云言スレト思ヒテ數年ヲ經テ
所マテ身正和法スんテ古ノ夜伊夜
云カ大隈云し即又勅ヲ談シラレん言ノ
也キハ實ニ正々堂々の正論にてありト云
之ヲ申ク者感歎セザん者カ一自身陽
朝ノ貴賤ある所ある其レニ感スん所
口多キハ伊夜云い他の人ノ向テは言ヲ語ガ
深キヨシトセストテ措テりしかる御云カ言ハ
祈ヨリ人の知る所ト云われりト云レシテ
予中祈りより之ヲ見レハ以テ元年より毎
歳参議中ニ議論ノ起リ交代スレハ今日
國家ノ存案ニ非ス實ニ外國人ニ對して
物カんりト云ハたテ何卒生活ハ禱カ

歳考議中に議論起り交代スルハ今日
國家ノ将来ニ非ス實ニ外國人ニ對して
物有る事ト云ハたゞ何卒生活ハ得ハレ
國儲して國是ヲ議スル事ヲ祈ル
一 大文臣の官方者云ハ辭職の由心裁
ある物ト新聞紙上ニ見ゆレ共是ハ毛
根の流言ヨリテ新增新聞ヲ計ルノ力
細工ニシテ官方者ト云ハレ

一 左大臣云ハ流石ニ官方者ヲ初セカレ方ニヤラ
セラレシ其志堅磐石アリ云今日内閣ヲ
去ラセラレト云モ國家ノ責めの免レ疾
ハナレト云フ事ハ元ヨリ其意知シテアリ
一 大文臣云ハ胃弱ヨリ其交感弱病ヲ覺シ
テニ所全快ノ程候アリ實ニ云ハ國家
責任の大任ナレハ今暫ク~~自~~壯健祈
ル所也アリ

一 而夫~~大~~黒田考議力辭職モハ全ク虚
評アリ實ニ格者モ云カ辭表ヲ出サレ
る事ハ密カニ消息存在ス是ニ就テモ
古久保初ハ勿~~所~~シる事ヲ遺憾人

一 脚廻事~~所~~登載シ際ニ系云カテ任敷ニテ
陛下ト云リタリ格者~~方~~シ中~~之~~出~~た~~ル~~事~~ハ
其當時格者直格云~~レ~~謁~~シ~~何~~レ~~得~~共~~
形モナキ流言子~~テ~~其~~事~~アリ右~~セ~~テ格~~者~~
カある~~事~~ト云~~ハ~~内~~閣~~神~~あり~~

一 政府組織~~ノ~~事~~ト~~分~~ル~~事~~ト~~不~~得~~夫~~是~~
中~~之~~餘~~リ~~嘆~~ク~~セ~~ス~~如何~~ト~~ト~~テ~~何~~程~~立
派~~ノ~~組織~~あり~~ト云~~ハ~~法~~ト~~言~~フ~~者~~ハ~~人物~~ハ~~
有~~ス~~ル~~者~~あり~~ハ~~格~~者~~其~~人~~ナ~~リ~~ハ
世俗~~ノ~~新~~聞~~思~~人~~ノ~~實~~事~~ト~~して~~は~~徒~~徒~~
則~~ニ~~席~~ス~~ル~~事~~ト~~論~~ヲ~~待~~タ~~ス~~ル~~事~~ト~~云~~ハ~~地~~神

有らん者おれい輔佐者其令地
世俗の新詔是人し實日して徒法徒
則二虐るん一論ヲ待たス而カニ他神
明又撤テ祈るの升おらん諸公に對して
切望せん新世に新無私情ヲ去り情定テ
腹抑レテ政府は勉勵セラレニテ知らん
之ヲ尙軍に謂へい太政大臣ヲ始め彼等
紫之幽居に居らん時ノ精神又成到へ
參謀諸公ニ維新の敵衣立食ニテノ
又下ニ文義ヲ唱へラレん時精神復テ
少く限るべし何卒以テ熱海に行クの日
走リ連フト云々を廢し下されん
の事あり

一今右國家主ニ帝室ニ對し盡るの道は
我々得共是に令更言う道モナリ彼ノ士
ノ大勲ヲ英譽セラレニ於テは是社
誠より我々~~の~~黨の旗^{しるし}あり信
この大旗ヲ掲ケ大ニ者自謹慎を以テ
正々~~と~~正義ノ氣を鼓舞して
進ニテアリコ故又官吏より二の勲
背走氏よりしてコノ勲ヲ輕蔑し奉る者
ハ我黨違勅ヲ以テ論セザんべからズ是
以て決死アレ必竟是迄多少~~の~~不逞
の事ありト云々今日口~~を~~今日何ヲカ
論せし早ク一國の智ヲ解キ全國の私情ヲ
解テ一舉ニテ海外ニ當るの法方ヲ講セ
ニテアハんカラズ明君上ニテ我輩令更何
ヲカ言ふこの~~君~~君の~~ハ~~臣ニ耻テスこの
君の官吏は耻チラス官民混和ニテ國家
條條の道を奉サレんカラズ然るに今又
凶雲蔽セズ被レヨリ此ニ對り日夜罵るの

君の官吏は耻ぢりず官民混和して國家
條條の道を奉ずるべからざるべし又
凶雲蔽せし彼レヨリ此ニ墜り日夜罵るの
声を聞えり甚だ歎息ス夫レ人て私情
中奉る一日も以て欠情ナキヲ能ハス其
の~~情~~帝ノ力ヲシテ言フ共和の民也
欠レ所^所あるべし此レヤ僅々十由年間に
政府ノ下チヤ何ソ欠情ナキナリヤ然レト
云モコト君ありこの勅諭ありおん者ヲ携
テ丈え者ヲ携リ奉國ノ力ヲ以テ外侮智
るの道を求めざるべからず史古ナリ國家
君民私情を授け外を忘れ内を争
りあり市を以テ今日を見れば強レト
斯又^又あるこの如ク一室寔心セサレヤ
苟モ我黨の有志者深ク心を斯レ注
ミ利己利己の論名を^名詭辯
一卑ク全國の親睦を圖ラズといハんカ
ラス

一市カ但儼々^々新日の勸農義社し
多ク有る也君子と善ム小者之レ彼ノ農商
工兵書各漢^漢於テ瘡痍セラレんヤ此心
配りト世の果^果市レヤカ意^意ト好セス如何
レトせし元^元彼ノ名史社會に於テ農事
柄^柄注意セラルク者レ僅々^僅此レ人の外に
レ其^其他^他概^概して知らん止ムこの故^故予
カ身^身を以テ之^之書^書ヲ新^新以^以シテありこの友
史社會に於テ元^元此^此を辱^辱んる事^事有^有者
何^何ソ市^市輩^輩父母を罵キ家^家を厭^厭ム又自
レ^レ信^信スん^んト^トレ^レ也^也故^故レ予^予其^其瘡^瘡痍^痍の瘡
棄^棄レ^レ帰^帰シ^シらん^んの當^當也^也と^と思^思ハ^ハル^ル也^也
市^市の^の新^新して^てこの^の道^のを^を擔^擔持^持セ^セル^ルは^は國^國家^家

何ソ市軍父母を置キ家ヲ廢ル
 子供をん下リを故ニオキテ強迫の積
 業ニ帰シタレバ當ルコトヲ考ル
 市の新ニシテ之の道ヲ指シテ其の國家
 の之れより中領方有故強復の如キは
 學一思出キ進出ルル法ハ在在
 市ハ市月半百を以テ激烈ある建白書
 市花出シテハ誠心密カク市ヲ新カ
 其其臣等強信云ク所メ早リ國家
 是々ヲ惜ラレ進シテハ政治ニ勉勵シ
 下レ進シハ民衆擴張ニ力ヲ盡シ人
 下リ欲らん所リ他ニ港原カ意中下リ
 あらん中し之ニ考考しぬメニカク
 市年々寸寸ハ
 一全國田反別 明治十三年初 合計二万六千三百六十七
 町〇七部千步
 一全國人口毎一人、死者を以一人育田ハ散弱
 一コノ收穫 風早水 損失害陸中 玄米三千百六十七万
 八千二百八十八石
 肉類

一各種の醃肉 明治十二年 四万五千五百四十五石〇四石
 一得油味噌蒲肉 明治十二年 菓子糖漬の類二百五十
 石
 一 殊二千五百〇二万三千七百九十四石 食料
 一 今年食料玄米 七千〇二万九千九百三十三石
 白米六年
 三種一石
 八勺九
 一 十月玄米五石八勺九厘 白米五石二勺四勺
 四撮
 一 〇 三年平均 玄米一万九千九百八十六
 撮

瑞穂の園七二の苑中ニ隔リあり市口ヲ南高ハ
 瑞穂の園七二の苑中ニ隔リあり市口ヲ南高ハ

一〇 平均 去年の出来一〇九〇七〇 白米一〇八〇六

概

瑞穂の園七二の是キニ飾りたり市口中南高ハ
必ス言フ食ハ物カ多量あり我々も然ルニ惜ル
者甚ク多ク飾りあり是又是の確信ヲ奉リ
一〇 以元年より 輸入 去年迄輸入出来
石五〇百五十九百十三百三十五

此價金九百五十五百二十四百三十四

一〇 向新 去年迄輸入米

石五〇三百五十九百九十七百五十九

此價金三千九百三十九百六千三百五十七百

輸入超過 石五〇百六千六百八十四百三十九

此價金千七百五十九百三十九百三十四百

習慣不仁ノ是ニ是テモ國の云ヒガント云フニ
い是ハ我々狂人あり人——この故ニ貿易ヲ
盛ニスルニ商標ヲ擴張スルノ事乃チ是者
ハ配スレバ到底物名多量ニ——其效ハ
尋ラズルニ——シテ其所ヨリカハ
二年度ノ額ハ一億五千万見レハたノ如シ

全國毎一戸

輸出 三内 千四百一十一百七
輸入 六内 千七百九百五

差引入 過 三内 千七百九百五

全國毎一戸

輸出 七内 千四百一十一百七
輸入 六内 千七百九百五

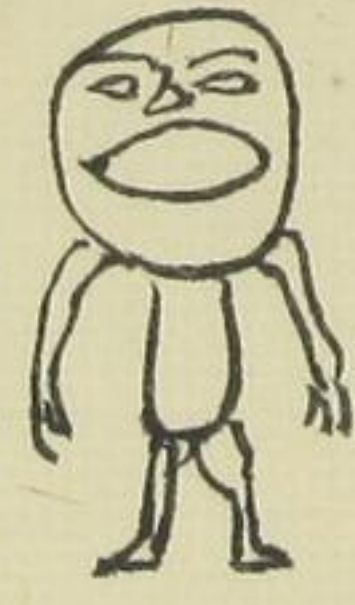
差引入 過 七内 千四百一十一百七

一〇 去年度又海外ニ向テ金銀貨の流出シ
去リタル者ハ千六百七十九百五十四百三十四
〇 三兆三億六千

一〇 標十國ハ地球上ニ云ヒあるヘカラス七ヒカ
中好ミ多クあり然レモ世人ハ之ヲ惜ラス奢侈
ニ墮リテ力ヲ竭ヒ口申リ立派ニ——
ニんあり扱わ——概観又堪ヘザルニ

去り見ん者い千六万二千七百五十四万五千三百三十四
○三考三考五考

コノ様十國ハ地球上ニ在リトあるヘカラズセヒヤン
中極多クあり然レニ世人ハ之ヲ惜ラズ奢侈
ニ墮リテ力ヲ竭ヒ口弁リ立派ニシテ喋
ニスルあり扱ウシク概然又堪ヘザルヤ
我今日喋ニ者ノ姿を見レバたの如ク



あんとこの様物も足力を多ク持テ
外國人ニ對シテも物入る事ハいなき哉半也
考ラニの也又此即考アリ

一氏カコソハ昔昔社會ノ人々ト莫トノ情案一
たると思ふ所アリ此神ある雨降テ地堅
る事ト至極目出交る事ト名付ル事ト此上恐
るハ凶歳あり何年十ヶ年程ハ災害ヲ免
レズ此凶年トある事ト凶歳んも名付ル事トハ
天怒

在政府ノ域ニ隔る事ト名付ル事ト也
我輩ト鐵砲スル事ト外無之事ト也
此世出即此世物ト上ハ思ハ思婦ヲ
被舞ト農桑ヲ御メ國家挽回言ハ
カテトナリテ度我見ル又少年輩トハ
才高ト學問ヲ此勸メテ十年間トハ辭達
事ヲモ讀ム人傑ノ輩出ル事ト也此丹書ト
下多ク好メテ情實急事ト也此紙籠
畫シ何レ今度ト出出事ト也此此此
ア上レケル此此此也

十月廿五日

石井文之

石井文之
下

9
210

